

「緑の広域計画（仮称）」 策定に向けた中間のまとめ

令和8（2026）年7月
東京都都市整備局

- 都はこれまで「**2050東京戦略**」で掲げる豊かな緑と水が織りなす潤いと安らぎの都市東京への実現に向けた取組や、東京の緑を「まもる」「育てる」「活かす」100年先を見据えた緑のプロジェクト「**東京グリーンビズ**」など、**緑に関する取組を着実に進めてきました。**
- 現在、東京の緑を取り巻く環境は、気候変動の進行や社会状況等により大きく変化するとともに、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等の視点も踏まえた取組が求められています。
- 緑は、ヒートアイランド対策や防災、健康増進、生き物の生育・生息場所など多様な機能を有することから、インフラ整備などハード面による都市強靱化に合わせ、自然が持つ防災力の活用や生物多様性の確保など様々な**都市課題の解決に向けて機能発揮**していくことが求められています。
- また、令和6年の都市緑地法の改正により、都道府県は都市における緑地の適正な保全及び緑化の推進に関して、**新たに広域計画を定める**ことができるようになりました。
- 都は、広域的かつ戦略的な視点の下、緑施策を計画的・積極的に展開していくとともに、区市町村が策定する「緑の基本計画」の指針となるよう、東京の緑のあるべき姿を示す「**緑の広域計画（仮称）**」を**令和8年度に策定**することとしました。
- 今般、有識者との意見交換等を経て、「『**緑の広域計画（仮称）**』**策定に向けた中間のまとめ**」を取りまとめましたので、広く**都民の皆様**の御意見をお聴きいたします。
- 今後、中間のまとめのブラッシュアップとともに、具体策等を検討し、再度、都民の皆様から御意見を頂いた上で、「緑の広域計画（仮称）」を取りまとめていきます。

「『緑の広域計画（仮称）』策定に向けた中間のまとめ」の構成

1 東京の緑の現状と動向

- ・ 東京の自然基盤
- ・ 社会状況
- ・ 東京の緑の状況

2 東京が目指す緑

- ・ 将来に向けてあるべき東京の緑
- ・ 2050年代に目指す東京の緑の全体像
- ・ 三つの視点から目指す緑

3 緑の将来像

- ・ 地域区分別
- ・ 種別
- ・ 緑への満足感の把握

「中間のまとめ」以降、具体的な取組、目標及びプロジェクトを検討

「緑の広域計画（仮称）」を策定し、2050年代に向けた東京の緑施策を推進

東京の自然基盤

- 緑は、土壌や水、気象条件などと結びつき **自然環境を構成する重要な基盤**の一つです。
- 西から東にかけて**山地から丘陵地、台地、低地**となり海へとつながる**地形や水系**が形成され、それぞれの自然にあわせ、里山や農地など**人々の暮らしと関わる多様な緑**が存在しています。

山地

- ・ 古生代から中生代までの海底堆積物が隆起してできた地形です。
- ・ 深い谷には多摩川や秋川が流れ、溪谷を形成しています。

丘陵地

- ・ 古い台地の上に関東ローム層が分布した起伏のある地形です。
- ・ 浸食により平坦面がなくなりつつあり、尾根と谷が入り組んでいます。

低地

- ・ 主に河川による土砂の堆積によって形成された地形です。
- ・ 荒川や江戸川周辺に広がる東京東部の平野や多摩川沿いの平野のほか、人工的な海岸や埋立地を含みます。

凡例

- 山地
- 丘陵地
- 台地
- 低地
- 島しょ
- 鉄道路線図
- 一級河川
- 二級河川
- 崖線

0 5 10 20 km



台地

- ・ 関東ローム層が分布する平らな地形です。
- ・ 多摩川、入間川、荒川及び海岸段丘に囲まれ、東部は中小河川の浸食で複雑な地形を形成しています。
- ・ 台地の縁には多摩川や海岸線の移動により形成された崖線が見られます。

島しょ

- ・ 伊豆諸島は本土部から連なる富士火山帯に属する火山由来です。
- ・ 小笠原諸島も火山活動により形成されました。



軸となる地形

崖線

- ・ 河川の浸食によって形成された、台地と低地の境目にある急な斜面です。
- ・ 東京都では、崖線の約4割が緑で覆われており、緑の骨格の一つとなっています。

水系

- ・ 多摩川水系、鶴見川水系、荒川水系及び利根川水系の四つの一級水系と、直接海へ注ぐその他の二級水系に大別されます。

社会状況

- 気候変動による自然災害の頻発や生物多様性の損失など様々な課題に直面しており、パリ協定など国際的動向の進展等を踏まえるとともに、都市基盤などハード面の整備等に合わせ、自然が持つ力を発揮させることにより都市課題を解決すること（Nature-based Solutions）が期待されています。
- 少子高齢化や多様な人々との共生社会の進展とともに、人々が健康的で豊かな暮らしの実現が求められています。

東京の緑の状況

- 公園整備による新たな緑の創出に加え、更なる農地や樹林等の保全の取組の推進が必要です。
- 防災・減災機能の強化や暑さの緩和等都市環境の改善には、水循環や緑の連担性が重要です。
- 子供の遊び場やくつろぎ・安らぎの場等、身近な緑の多様な利活用ニーズが増大しています。
- 緑の生長や植栽場所等に応じた、樹木の適切な維持管理の徹底が必要です。
- 世界都市ランキングにおける緑地の充実度は向上しており、今後更に高めていく余地もあります。

東京には多様な緑があり、その魅力や価値をまちづくりと調和させながら、次世代に引き継ぐことが必要です。

将来に向けてあるべき東京の緑

○ 東京の緑の骨格や特徴を明確化し、その魅力を発展

- ・ 骨格：山地から低地、海辺へとつながる水系や崖線を軸とした多様な自然環境
- ・ 特徴：歴史的景観・風土、民間活力・自然再生技術などにより保全・創出された緑等

○ 緑のポテンシャルをまちづくりと調和させながら最大限発揮し、その恵みを楽しむ

- ・ 都市の魅力、ウェルビーイング、生物多様性、レジリエンス、生産・循環及び環境再生等のポテンシャルを生かす
- ・ 良好な都市環境の形成や都市強靱化を図りながら、緑を保全・創出するとともに、生育環境に応じた健全な緑を育成



※1

のびのび過ごせる緑の実現



※2

緑陰の創出



※3

都市開発に合わせた緑の創出



※4

連担性の誘導



※5

里地里山の保全



※6

都市農地の保全・再生



環境学習の充実



※7

名所の拡充



※8

生物多様性の保全

東京の緑の魅力や価値を生かし、2050年代の東京の緑の全体像を設定します。

2050年代に目指す東京の緑の全体像

「あらゆる場所で『緑』を感じられ、『緑』の恵みを享受する都市」

三つの視点から目指す緑

緑の成り立ち

多様な緑あふれる都市・東京

- ◆ 「東京ならではの」多様な個性ある緑を一層際立たせていく
 - ▶ 山地・丘陵地・台地・平地・海辺に残る樹林地等自然地や軸となる崖線、水系など、「東京の自然の成り立ち」に根ざした自然基盤である緑を保全
 - ▶ 多様な自然環境に即した生物多様性を保全・回復
 - ▶ 様々な時代から引き継がれる多彩な緑を健全に育成し保全・回復



まちづくり

魅力的な緑に包まれた都市・東京

- ◆ 持続的なまちづくり等にあわせた多彩な緑を創出していく
 - ▶ 良好な都市環境の形成や都市強靱化等まちづくりと調和させながら、あらゆるところで緑を視認・体感
 - ▶ 先進国の首都として、世界的にも希少な農地との共存
 - ▶ 内外からの多様な人にとって魅力的で観光名所となる多彩な緑
 - ▶ 日差しを遮る木陰の創出やグリーンインフラの機能確保等により、快適で安全・安心な都市環境の形成に寄与



人の関わり

緑を育て、緑によって育まれる都市・東京

- ◆ 様々な人々と緑とのつながりを増やしていく
 - ▶ 子供たちをはじめ、多様な人々が伸び伸びと過ごせる緑
 - ▶ 樹林地の管理や農作業等を通じて多様な主体が緑に関与・参画
 - ▶ 環境教育等の場や機会が充実し、誰もが緑への関心を向上



東京の緑が目指す姿を実現するには、様々な地域で多様な緑がそれぞれポテンシャルを発揮し、機能を高めていくことが必要です。

地形や気象条件、市街化の状況、人間活動等は地域ごとに特色が異なるため、「都市づくりのグランドデザイン」における四つの地域区分ごとに、目指すべき緑の将来像を描きます。

地域区分別

自然環境共生域

- 魅力と活力のある地域を支える豊かな緑
- 特徴的な緑：森林や農地等

多摩広域拠点域

- 里地里山の景観や地域の歴史とたたずまいを感じさせる緑
- 市街地の暮らしを支え、交流の拠点となる豊かな緑
- 特徴的な緑：里地里山や農地、住宅地などのまちなかの緑等



周辺県ともつながる
グリーンベルトを形成



新都市生活創造域

- 武蔵野等の面影を残す農地や大規模公園など厚みとつながりのある身近な緑
- 人々の活動や交流の核となる緑
- 特徴的な緑：住宅地などのまちなかの緑や屋敷林、社寺林などの歴史的な緑、農地等

中枢広域拠点域

- 東京を象徴する都市景観を彩り、活力ある魅力的な緑
- 歴史と文化を継承し、東京の魅力を伝える緑
- 特徴的な緑：公開空地などのまちなかの緑、大名庭園などの歴史的な緑、臨海部の海辺の緑等

各地域に共通する緑：公園や街路樹、崖線や河川などの連続する緑等

自然環境共生域



※画像生成AIにより作成

三つの視点から目指す緑

緑の
成り立ち

- 亜高山帯から亜熱帯まで広がる豊かな自然環境が、周辺の農地や河川、森林等と一体となって保全
- 多様な生き物の生息・生育環境が保全されるとともに、生き物との適切な共生が進み、健全な森林環境が形成

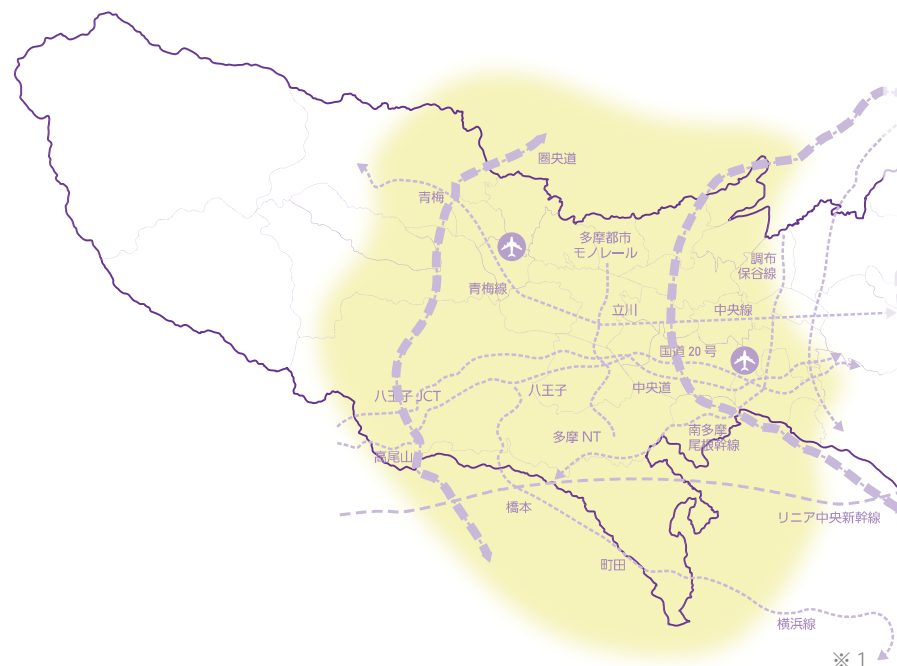
まちづくり

- 多摩産材の利用が進むなど、森林循環が持続的なものとなり、健全な人工林によるCO₂吸収や水源かん養などのグリーンインフラ機能が発揮
- 保全された農地と周辺の山地がつながり、生活と自然が調和した地域が形成

人の関わり

- 自然と深く触れ合い、その豊かさや恵みを実感
- 地域によって異なる豊かな自然の個性がより一層際立つとともに、これらの自然環境に根ざした暮らしや産業・文化が継承

多摩広域拠点域



都市づくりのグランドデザインにおける将来像

- ・ リニアや圏央道等により**広域アクセス**が大幅に向上し、多摩都市モノレール延伸部などで**新しい暮らし方・働き方が定着**
- ・ 研究・学術・ものづくり・産業等の拠点や、**豊かな自然や教育環境・実装技術**を生かし、**誰もが安心・快適に自分らしく過ごせる住環境**を形成



※画像生成AIにより作成

三つの視点から目指す緑

緑の
成り立ち

- 丘陵地等を主体とした緑の骨格が形成され、**他県にも連なる巨大なグリーンベルトを創出**
- 多様な生き物の生息・生育環境でもある丘陵地の里山環境が保全・継承されるとともに、まとまった規模の樹林地や農地等**身近に感じる緑が保全**

まちづくり

- **地形や景観に配慮**されて創出・保全された緑が、グリーンインフラとしての機能を発揮
- 緑を色濃く感じることができる中、市街地では**良質な新たな緑が創出**

人の関わり

- 里山景観を生かした**公園等の維持・育成**に多様な主体が関わり、**里地里山の魅力を継承**
- **地域の緑を核とした多世代が支え合うコミュニティを形成**

新都市生活創造域

都市づくりのグランドデザインにおける将来像

- ・木密地域の解消、大規模団地の更新等に併せて、多様な住まいや身近な交流の場が整い、水と緑に囲まれた**ゆとりある市街地**や**駅周辺に集約された拠点**を形成
- ・空家等を地域資源と捉えて最大限活用・再生するなどにより、**身近に多様なビジネスや居住・交流の場**が創出



※画像生成AIにより作成



※2

三つの視点から目指す緑

緑の
成り立ち

- 環状につながる緑がエコロジカルネットワークの役割も有し、**多摩広域拠点域の緑と一体となって、広大なグリーンベルトを形成**
- 農地や屋敷林等の**昔ながらの緑が、地域の顔として至る所で身近に存在**

まちづくり

- 公園や街路樹などが**厚みとつながりのある緑を形成**するとともに、都市のグリーンインフラとしての機能が発揮
- まちづくりと調和した、**ゆとりと潤いのある緑豊かな住環境が再生・創出**

人の関わり

- 農地では身近な生産地として、東京の農業や農業文化・歴史を伝え、**多くの人々が農への親しみを実感**
- 子供から高齢者まで幅広い世代の人々が、**自然を身近に感じながら交流**

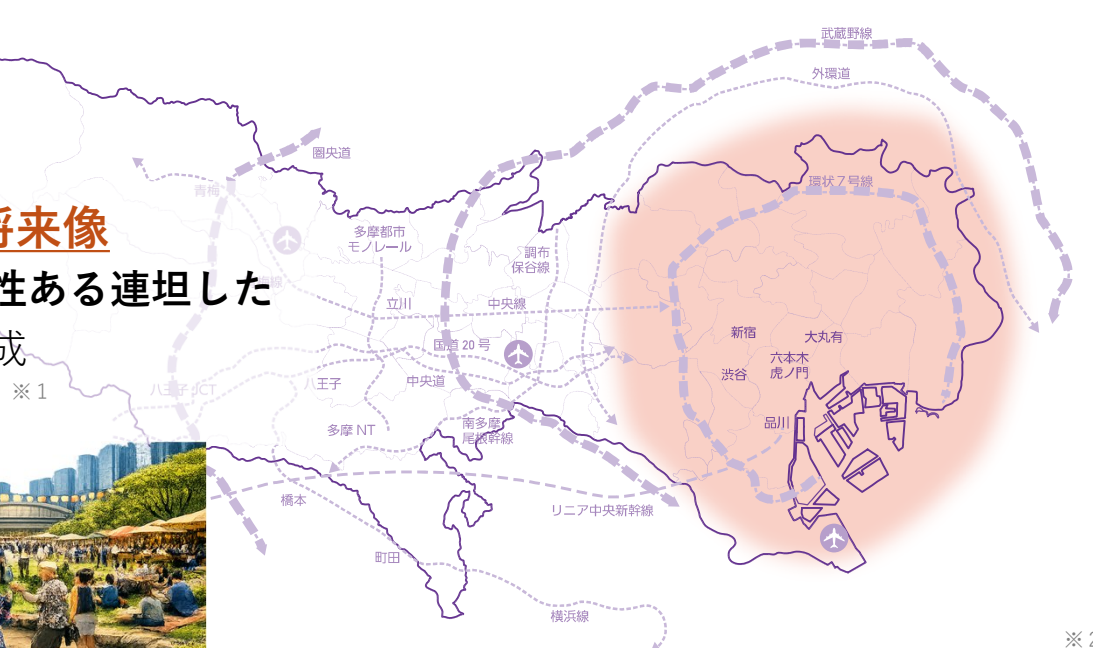
中枢広域拠点域

都市づくりのグランドデザインにおける将来像

- ・ 国際的なビジネス、歴史・文化・芸術など個性ある連坦した多様な拠点、複合的な中高密度の市街地を形成



※画像生成AIにより作成



※2

三つの視点から目指す緑

緑の
成り立ち

- 文化財庭園等の歴史や文化を有する豊かな緑や多様な生き物の生息・生育場所となる都心の大規模緑地などが東京の持つ資産として保全・継承され、国内外の人にとって魅力的な緑あふれる都市空間を形成
- 海辺の緑等の創出により、豊かな自然が共存する水辺空間に再生

まちづくり

- 都市開発等の機会を捉えて、緑豊かで潤いのある複合市街地が形成
- 高密度な都市部の駅前や屋内空間等あらゆる場所で身近に感じられる質の高い緑や立体的な緑が創出され、都市のグリーンインフラとしての機能を発揮

人の関わり

- 東京の玄関口にふさわしい緑が広がり、訪れる人々に安らぎと憩いを提供
- 多様な人々が憩い交流する空間に多彩な緑があふれ、働く人にも訪れる人にも快適となる緑に調和した親しみやすく居心地の良い空間が形成

東京には、骨格となる崖線等の緑や拠点となるまとまった緑、生活に溶け込む身近な緑、ネットワークを構成する緑など**多様な緑**が存在し、自然基盤を形成しています。
本計画では、東京の多様な緑を**9種類**に区分し、地域区分別だけではなく種別ごとに目指すべき緑の将来像を描きます。

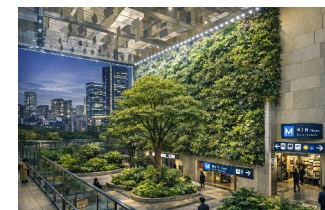
種別



公園



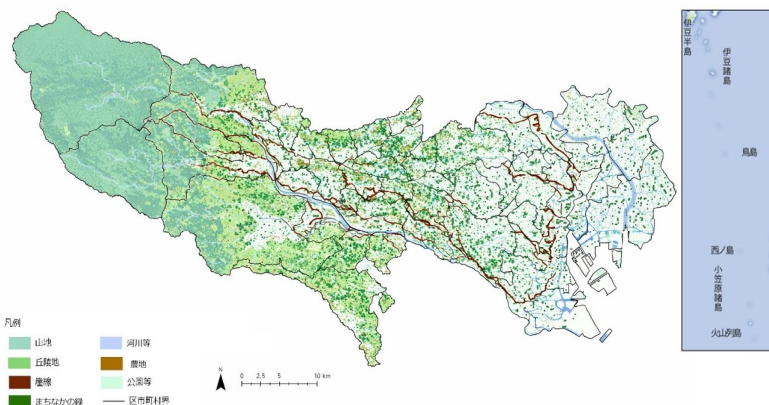
街路樹



まちなかの緑



歴史的な緑



海辺の緑



農地



里地里山の緑



自然公園・森林・島しょ等



崖線・河川・上水・用水・水路等

公園

特性

都市の緑の拠点を形成するとともに、ふれあいの場、環境保全や防災、美しい景観など多様な機能を持つ

将来像

豊かな緑を有し、緑の多面的機能をくまなく発揮することで
地域の緑・にぎわいや魅力の核となり、都民のウェルビーイングに貢献

- ・ 生物多様性や様々な災害への対応等、**都市活動の基盤となる環境と安全、安心を確保**
- ・ **四季折々の美しさを感じながら緑の豊かさを実感**できるにぎわいや魅力の拠点として、**国内外の人々をひきつける空間**が形成
- ・ 散策、休息、外遊び、健康づくり等、**自由に伸び伸びと快適に過ごせる場が充実**



※画像生成AIにより作成

街路樹

特性

都市環境を良好に保ち、厚みのある連続した緑で歩行空間に潤いをもたらす機能を持つ

将来像

緑の拠点を結ぶグリーンロード・ネットワークが充実し、
安全で快適な歩行空間と四季を彩る美しい都市景観が調和した緑が実現

- ・ 緑の拠点が街路樹でつながり、**都市のエコロジカル・ネットワーク形成**に寄与
- ・ 歩道幅員などの状況を踏まえ、暑さ対策として**樹冠拡大による緑陰確保**を推進
- ・ 街路樹の**木漏れ日**の中で、オープンカフェ等の人々が**憩う場**として活用



※画像生成AIにより作成

まちなかの緑（大規模開発に伴う公開空地等）

特性

民間開発の機会を捉え、建物と一体となったオープンスペース等を確保し、良好な景観を形成する

将来像

あらゆる開発において、**公開空地**に加え、**建物の低中層部や屋上の緑化**等により**重層的な緑が広がり**、緑豊かで質の高いくつろげる空間を創出

- ・生態系に配慮した開発により創出された緑地や水辺が、市街地全体に広がる生物多様性の質の向上に貢献
- ・歩行者から視認しやすい場所での緑化が進み、あらゆるところで緑が創出
- ・都市開発によって生まれた緑が、**人々の心身を癒やす都市のオアシス**として機能



※画像生成AIにより作成

まちなかの緑（住宅地等）

特性

住宅地など身近な場において保全・創出される緑は、都民が日常生活の中で触れ合える緑として存在する

将来像

地域による緑化活動等を通して、日々の暮らしの中で触れ合える緑を創出し、**地域全体で緑に包まれた心地良さ**を実現

- ・生態系に配慮した緑の創出が進み、住宅地全体で生物多様性の向上が図られるとともに、**エコロジカル・ネットワークの形成**に寄与
- ・空き家等の低未利用地が身近な緑に生まれ変わり、緑と触れ合える機会が増大
- ・子供をはじめ多くの世代にとっての**コミュニティの場**が形成



※画像生成AIにより作成

まちなかの緑（その他公共空間等）

特性

駅前広場空間や歩行者空間など屋内外空間における緑は、多くの人が触れ合える街全体の居心地の良さに寄与する

将来像

これまで緑を感じることができなかった空間等への緑化を推進し、屋内外にわたってつながる緑が息づく街となり、緑の恩恵を体感

- ・ 緑陰を創出する木々や四季折々に変化を魅せる植物など、季節感ある緑が充実
- ・ 駅周辺や、道路、広場、屋内等のあらゆるところに緑があふれ、歩き、憩い、楽しむ緑空間を創出
- ・ 多様な主体が緑の創出・保全に関わり、緑を育て、緑に育まれる循環を実感



※画像生成AIにより作成

歴史的な緑

特性

屋敷林や社寺林等は、地域らしさを感じることでできる緑として貴重な存在であり、文化財庭園等は国内外の来訪者をひきつける東京の資産である

将来像

地域ごとの生活や風土を感じさせる風景・景観が保全され、「江戸」や「武蔵野」など東京の歴史・文化を伝える緑を継承

- ・ 特別緑地保全地区の指定等の促進により、地域の伝統や文化を伝える屋敷林等を保全・活用
- ・ 大名庭園等の保全や利活用を推進し、東京が誇る緑の魅力を発信
- ・ 数百年を生きる樹木や庭園を通じ、子供をはじめ多くの人々が「命のつながり」や「歴史とのつながり」を肌で学ぶ機会を創出



※画像生成AIにより作成

海辺の緑

特性

埋立地や工業地帯からの土地利用の転換が進む東京湾岸は、水と触れ合える都市の貴重な空間として機能し、水辺の生物多様性の向上に寄与する

将来像

新たなまちの**にぎわいと豊かな自然が共存**する水辺空間に再生

- ・干潟や砂浜、磯浜等により、海辺の緑が再生し、**多様な生き物の生息空間**として機能
- ・海に面しつながる歩道や広場が広がり、**海と触れ合うことができる緑**が充実
- ・水辺の環境学習や水に触れる遊び、スポーツ・散策等を**楽しめる水辺空間**が実現



※画像生成AIにより作成

農地

特性

農業と市民生活が融合した都市は世界的に見ても極めて珍しく、都市農地は多面的機能を発揮する貴重なオープンスペースとしての機能を持つ

将来像

都市と共存する「東京農業」により、**農のある風景が保全・継承**され、地域の魅力が向上し、都民が農に親しむ機会が拡充

- ・長年受け継がれてきた身近な緑として、**住民の安心や地域の魅力につながる景観**を形成
- ・広域的な魅力・経済価値を生む存在として都民生活に貢献
- ・市民農園や環境学習の場として活用し、都民が農に親しめる空間として貢献



※画像生成AIにより作成

里地里山の緑

特性

谷戸や雑木林は、人の営みと適切な管理によって美しい景観、歴史・文化及び豊かな生態系の保全・継承に寄与する

将来像

地域らしい**景観や里山文化が継承**され、豊かな**生態系を育む環境**を形成

- ・里地里山の美しい景観や歴史・文化、豊かな生態系が保全・継承
- ・谷戸や雑木林を骨格とした緑が、**安全で快適な暮らしを支える基盤**として機能
- ・多くの**ボランティアの精力的な活動が促進**され、里地里山としての景観や文化が保全



※画像生成AIにより作成

自然公園・森林・島しょ等

特性 自然環境を活用した観光など、貴重な癒しの場所として都民に親しまれている

将来像 多様な地形と生態系を基盤とし、**生き物を育む環境**を保全するとともに、**人と自然が深く関わり、共生**する環境が実現

- ・ 自然の価値が認識され多様な自然環境及び固有の生態系が**様々な主体の協力**により保全・再生
- ・ **水源かん養能力やCO₂吸収**により、人々の暮らしを守り、気候変動対策等に貢献
- ・ 安全・安心・快適な利用環境の確保により、**国内外の多くの人が訪れる観光資源**として活用



※画像生成AIにより作成

崖線・河川・上水・用水・水路等

特性 連担する緑として、地域の自然、歴史及び文化に深く関係し、東京の緑を特徴付ける景観を形成する

将来像 **連続する緑のネットワークの軸**として、多様性に富んだ**自然環境の形成**や水辺空間の**にぎわい創出**などにより、都市に潤いを付与

- ・ 崖線、河川、上水、用水、水路などでつながることで**エコロジカル・ネットワーク**が回復
- ・ 崖線や河川等の地形特性を生かしたまちづくりの中で、**地域にふさわしい水と緑の空間**が創出
- ・ 子供を始め多くの人々が水辺で自由に遊び、散策や読書、ジョギングなど、**日常の静かな営みが溶け込む水辺**が実現



※画像生成AIにより作成

緑への満足感の把握

- 都は、生物多様性の保全や人々の安らぎ・潤いなど、緑の持つ多面的な機能に着目したみどり率を用いて、緑の現状及び推移を把握してきました。引き続き、東京の緑の現状及び推移を把握し、施策の参考とするため、みどり率の調査を実施していきます。
- 2050年代に目指す東京の緑の全体像「あらゆる場所で『緑』を感じられ、『緑』の恵みを享受する都市」の実現にあたっては、都民の**緑への満足感**を捉えていきます。
- 視界に入る緑の量が多いと心理的な潤い感や安らぎ感を向上させる効果があるとされており、満足感の向上につながると考えられます。「緑の広域計画（仮称）」では、緑への満足感について、「**アンケート調査**」や「**緑の視認性（緑視率等）に関する調査**」により把握します。



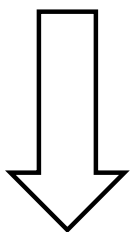
▲ 緑の視認性が高く、緑の実感や緑の恵みを享受できるまちのイメージ

※1

中間のまとめ公表後、都民の皆様の御意見を踏まえ、更に検討を深めていきます。
今後改めて、都民の皆様から御意見を頂いた上で、「緑の広域計画（仮称）」を取りまとめていきます。

[今回公表]

「緑の広域計画（仮称）」策定に向けた中間のまとめ 公表（令和8年7月）

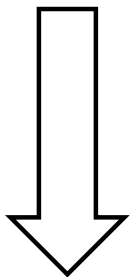


都民の皆様が、将来、都が目指すべきもの、
一緒に取り組んでいきたいことなどについて御意見をお寄せください。

都民の
皆様の
御意見

[引き続き検討]

具体的な取組やプロジェクトなどについて、
有識者等の意見を踏まえながら、検討を進めていきます。



[令和8年度]

「緑の広域計画（仮称）」 策定

東京都のこれまでの取組状況

「2050東京戦略」で掲げる豊かな緑と水が織りなす潤いと安らぎの都市東京への実現に向けた取組や、100年先を見据えた緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」を推進

■2050東京戦略 戦略19「緑と水」(抜粋)

2050年代のビジョン

豊かな緑と水が織りなす潤いと安らぎの都市 東京へ

2035年に向けた政策の方向性

豪雨・暑さ対策や生物多様性の保全・回復に資するよう、今ある緑をまもり、緑の減少に歯止めをかけるとともに、新たな緑を創出し、適切に維持管理

■東京グリーンビズ

- ・ふれあいの場の形成、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、防災力向上、景観形成など、**緑の機能を最大限発揮**
- ・緑に親しみ・楽しみながら育むために、都民をはじめ**様々な主体と連携・協力**
- ・都民や企業など様々な主体と連携し、**東京都一丸となって取組を推進**



緑に関わる動向

地球環境の変化

地球温暖化による気候変動の進行によって、**自然災害の脅威が拡大**



※ 1



※ 2

国際的な枠組み

地球規模の課題（気候変動、生物多様性、経済など）に対し、**国際的な合意や取決めが成立**

■ パリ協定

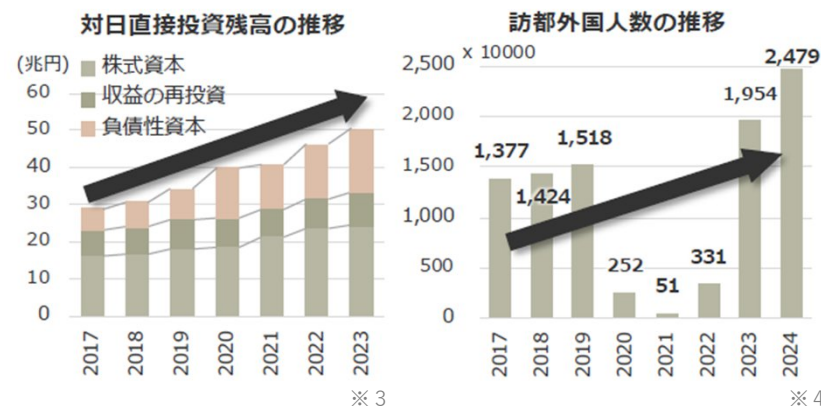
- 令和 2（2020）年以降の気候変動対策に関する国際的な枠組み

■ 昆明・モントリオール生物多様性枠組

- 令和 4（2022）年12月のCOP15で採択された、新たな生物多様性に関する世界目標

社会情勢

グローバル化の進展、人口減少・少子高齢化、成熟社会の過渡期など、**社会情勢は絶えず変化**



※ 3

※ 4

緑の多面的価値

社会情勢等の変化に伴い、都市のブランド力の向上や健康増進、子供発達といった、**緑が持つ多面的な効果・価値を再認識**

■ 緑と地域価値・経済的価値

- 都市部における緑の創出は、周辺エリア全体のブランド力と投資意欲をけん引し、高い付加価値を付与

積極的に自然環境を創出した「二子玉川ライズ」では、地価公示価格が1.33倍まで上昇



※ 5

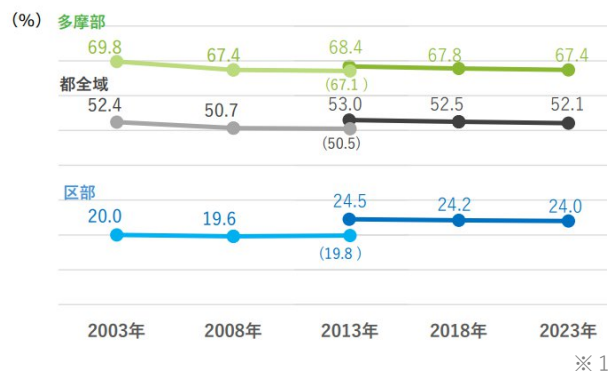
東京が抱える緑の課題

緑の量

- 「公園・緑地」は増加しているものの、「農用地」及び「樹林・原野・草地」は微減
- まちなかでは、緑を実感しにくい地区も存在

■みどり率※

みどり率の推移



※1

※みどり率：緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合

■農地面積

近年は、約50~100ha/年のペースで生産緑地が減少

■量に対する実感

▼緑を身近に感じにくい場所 (例) (※再開発により改善)



※2

緑の構造

- 防災・減災機能の強化や暑さの緩和等都市環境の改善には、水循環や緑の連担性が重要
- 公園整備や屋敷林の保全等は地域によって取組に差が生じており、拠点となる緑も偏在

■拠点・骨格となる緑の形成

緑の連担性等が開発により失われている場所も存在

▼多摩川由来の崖線



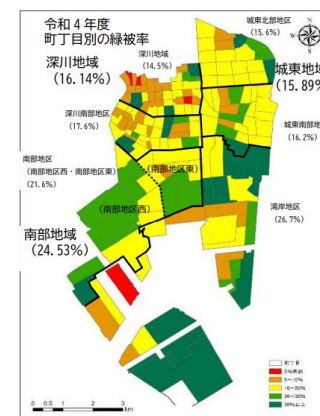
※3

▼都内の主な崖線



※4

▼緑の偏在 (エリア間の緑被率の差)

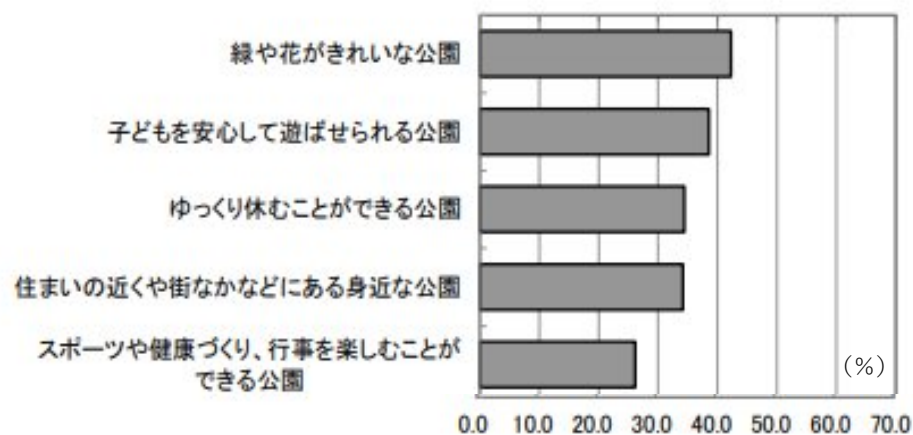


※5

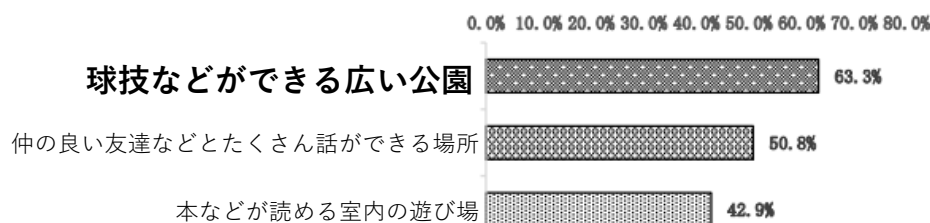
「ひと」と「緑」の関わり

- 利用者が望む、「緑や花」、「子供の遊び場」、「くつろぎ」等の多様な利活用ニーズへの対応が必要
- ボール遊びやスポーツ等の外遊びができる遊び場に関するニーズは高く、柔軟に活用できる環境整備が必要

欲しい公園▼



家の近くにあってほしい場所▼



※都内在住の小中学生、中学生、高校生、未就学児の保護者が対象

※2

緑の質

- 植栽されてから、長期間経過した樹木等の老齢化が進行
- 近年の気象状況を踏まえ、植物が持つ環境改善効果を生かすことが必要

■緑の管理

▼景観への配慮不足な剪定



※3

■樹木の老齢化

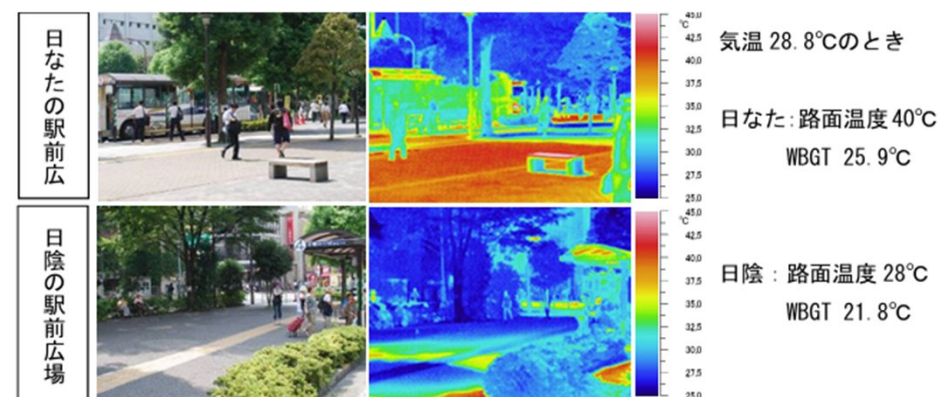
▼老齢化した樹木



※4

■緑による環境改善

▼緑陰形成による気温上昇の抑制効果



※5